

2022 年 6 月 2 9 日

お客さま本位の業務運営（フィデューシャリー・デューティー）に関する取組状況について

株式会社秋田銀行（頭取 新谷 明弘）では、お客さま本位の業務運営の徹底をはかるために「お客さま本位の業務運営取組方針」（以下、「取組方針」という。）を制定しております。

このたび、当行の取組方針に基づく取組状況と、その内容を客観的にご確認・評価いただくための指標〔K P I ^(注)〕を別記のとおり公表いたします。

当行では、今後も取組方針に基づく取組状況について定期的に検証のうえ、お客さま本位の業務運営のさらなる定着と改善をはかってまいります。

（以 上）

（注） K P I : Key Performance Indicator の略称で成果指標を表す。

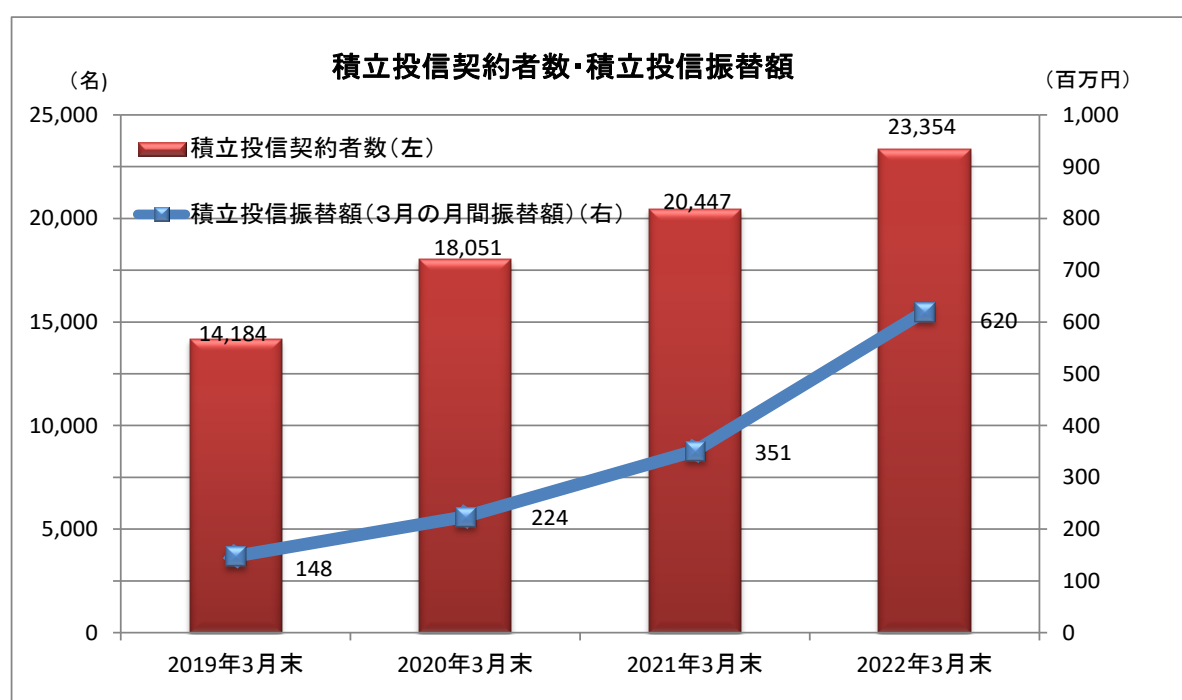
お客さま本位の業務運営（フィデューシャリー・デューティー）に関する取組状況について

秋田銀行では、お客さま本位の業務運営の徹底をはかるため制定した「お客さま本位の業務運営（フィデューシャリー・デューティー）取組方針」（以下、「取組方針」という。）を踏まえ、取組方針に対する具体的な取組みの内容および、取組方針に基づく活動を客観的に確認・評価する指標〔K P I（注）〕を定期的に公表しております。

（注） KPI とは、「Key Performance Indicator」の略称で、成果指標を表しております。

1 お客さまの最善の利益の追求

- （1）秋田銀行では、お客さまの最善の利益を実現するため、金融機関としての知見を活用し、お客さまのニーズやご期待にお応えする商品・サービスのご提案を行っております。
- （2）また、お客さまの資産状況、取引経験、知識および取引目的、ニーズ等の情報を蓄積させ、蓄積した情報を起点に、将来に向けた思いやニーズに寄り添ったコンサルティング営業の定着を中期経営計画の最重要課題として取り組んでおります。
- （3）投資信託については、お客さまの安定した収益確保のために長期・積立・分散投資を基本とした資産形成を当行全体として取り組んでおり、積立投信契約者数、積立投信振替額ともに下記記載のとおり増加しています。



- (4) 外貨建一時払保険については、運用目的のほか相続・贈与・年金等の保障ニーズも含めお客さまの意向を十分にくみ取ったコンサルティング提案をしており、結果として、外貨建一時払保険の運用評価別顧客比率はプラスリターンの割合のお客さまが 68.4%と 7 割近くとなっています。

2 利益相反の適切な管理

- (1) 利益相反とは、秋田銀行（秋田銀行のグループ会社を含む。）とお客さまの間でお互いの利益が相反する状況をいいます。当行では、「利益相反管理方針」を制定し、利益相反となる可能性のある対象取引を特定し、適切な管理を行っております。
- (2) 各種商品の販売にあたっては、お客さまの利益を最優先に考えた営業活動を行えるよう、営業活動の評価を手数料率の多寡を加味しない一律の評価としております。
- (3) また、営業活動の結果については、営業店への実査によるヒアリングを通じて本部による適切なモニタリングを行っております。

3 手数料等の明確化

- (1) 秋田銀行では、投資信託の販売手数料について、下表のとおり投資対象ごとに統一した、分かりやすいシンプルな体系としております。

なお、お客さまの資産形成に向けた取組みを進めていくため、長期分散投資に適した「バランスファンド」の手数料については、投資金額や購入チャネルを問わずノーロード（無料）としています。

■投資信託の対面販売における手数料体系

投資対象	販売手数料（消費税込）
バランスファンド	無 料（0%）
株式ファンド	2. 2 0 %

- (2) また、非対面取引であるインターネットバンキングを利用した投資信託販売については、対面販売手数料の 3 割引としており、お客さまがより非対面取引を利用しやすい手数料体系としております。

4 重要な情報の分かりやすい提供

- (1) 秋田銀行では、投資性金融商品の販売の際に、重要情報シート（金融事業者編）を使用し、取扱商品、商品ラインナップの考え方について説明するほか、当行独自の情報提供資料「資産運用商品ラインナップ」（チラシ）も合わせて活用するなど、お客さまが商品を選定する際に分かりやすい情報提供を行っております。
- (2) 投資信託、外貨建一時払保険については、複数商品の商品内容、リスク、運用実績、コスト等を分かりやすく比較するほか、重要な情報を提供するため、重要情報シート（個別商品編）、目論見書、商品概要書を活用し、お客さまに説明しております。

■重要情報シート（個別商品編、投資信託、外貨建一時払保険）、資産運用商品ラインナップ

- (3) また、各種セミナーをオンラインで開催しているほか、長期・積立・分散投資の重要性をお伝えるオリジナル動画を制作し、ホームページへの掲載や店頭ロビーで放映するなど、コロナ禍における新しい生活様式の中で、分かりやすい情報提供を行っていくための工夫を進めております。

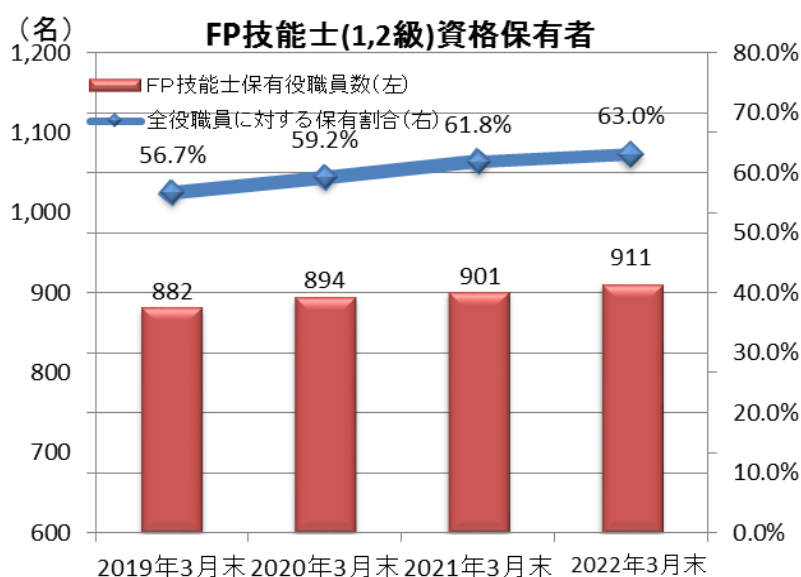
5 お客さまにふさわしいサービスの提供

- (1) 秋田銀行では、お客さまの資産状況、取引経験、知識および取引目的を踏まえ、お客さまの思い実現にむけた課題、潜在ニーズを解決するための提案を行うなど、お客さまに寄り沿ったコンサルティング営業を行っております。
- (2) また、お客さまの目標資産額と運用予定期間をベースとした必要利回りにもとづく「ゴールベースアプローチ」による提案を推進しており、リスクを抑えた「バランスファンド」と、リターンを求める「株式ファンド」を組みあわせる、分かりやすいポートフォリオ提案を行っております。

- (3) 商品ラインナップの整備においては、安定的な資産形成に資する商品を選定、採用しており、採用にあたっては「新規商品等審査規程」にもとづき厳正な審査を行っております。
- (4) 投資信託においては、相場動向下落時のお客さまへの親身な対応として、基準価額が前日比△5%以上となったファンドを保有しているお客さまに、適宜アフターフォローを行っており、市場動向を丁寧にわかりやすく説明しています。
- (5) 生命保険では、保険契約を見える化するサービスとして、保険「証券分析システム」を取扱開始しております。お客さまが加入中の保険証券の情報にもとづき作成した「保険分析シート」をもとに保障内容の確認を行い、現状の課題と対応方法についてご案内しています。
- (6) 投資が初めてのお客さまやご高齢のお客さまには、投資目的や資産運用ニーズ等を十分に把握したうえで、リスク許容度に応じた適切な商品やサービスの提案を行っています。特に高齢者に対しては「高齢者取引ルール」にもとづき対応しています。また、80歳以上の投資信託のアフターフォローを役席が行うことに改正するなど、適宜、適切な対応をとっております。

6 職員に対する適切な動機づけの態勢

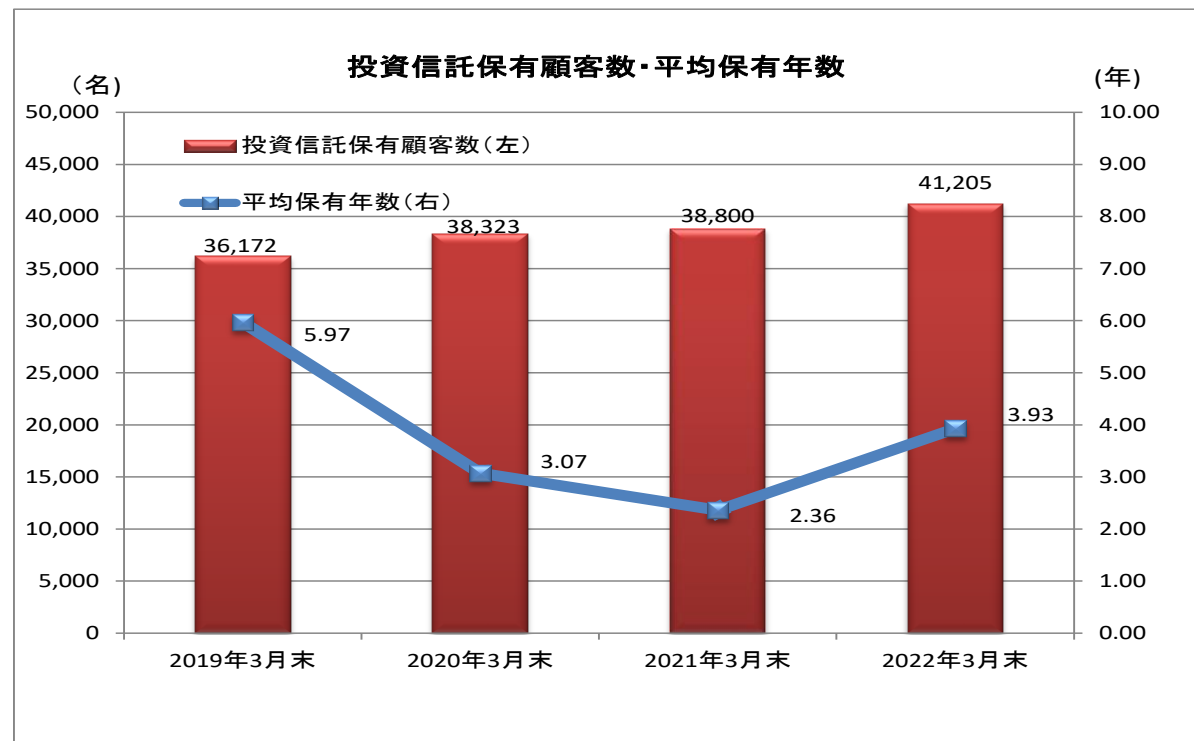
- (1) 秋田銀行では、お客さま本位の営業活動の動機づけとなるよう、お客さまに対する提案活動を評価の対象としているほか、商品の販売については投資信託、生命保険などの商品種類や手数料率の多寡を加味しない全商品一律の評価としております。
- (2) また、高度なスキルと専門知識を有する人材育成および顧客本位の業務運営を実現する観点から、コンサルティング能力の底上げに取り組んでおり、積極的なFP資格保有を奨励しております。FP技能士(1級、2級)の人数、全職員に対する割合は下表のとおり増加しております。



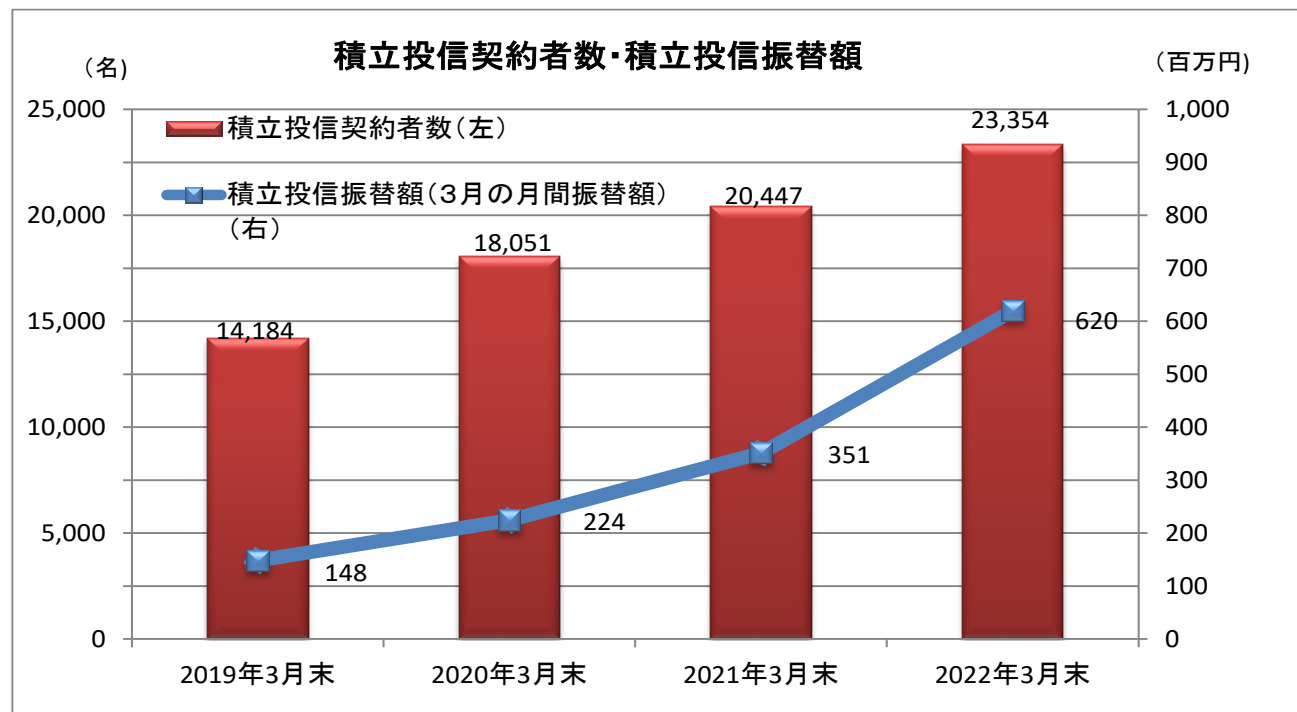
成果指標（KPI）

- 投資信託保有顧客数・平均保有年数
- 積立投信契約者数・積立投信振替額
- NISA口座数・iDeCo契約件数
- 投資性商品の販売上位商品
- 投資信託の運用損益別顧客比率〔共通KPI〕
- 投資信託預り残高上位20銘柄〔共通KPI〕
- 投資信託商品のリターン実績(コスト・リターン)〔共通KPI〕
- 投資信託商品のリターン実績(リスク・リターン)〔共通KPI〕
- 外貨建一時払保険の運用評価別顧客比率〔共通KPI〕
- 外貨建一時払保険商品のリターン実績(コスト・リターン)〔共通KPI〕

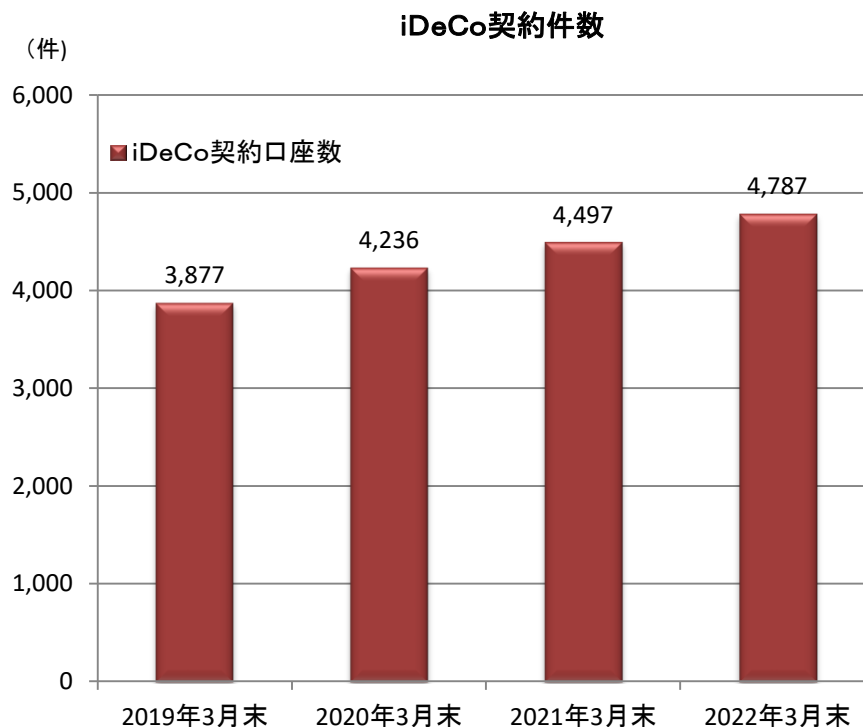
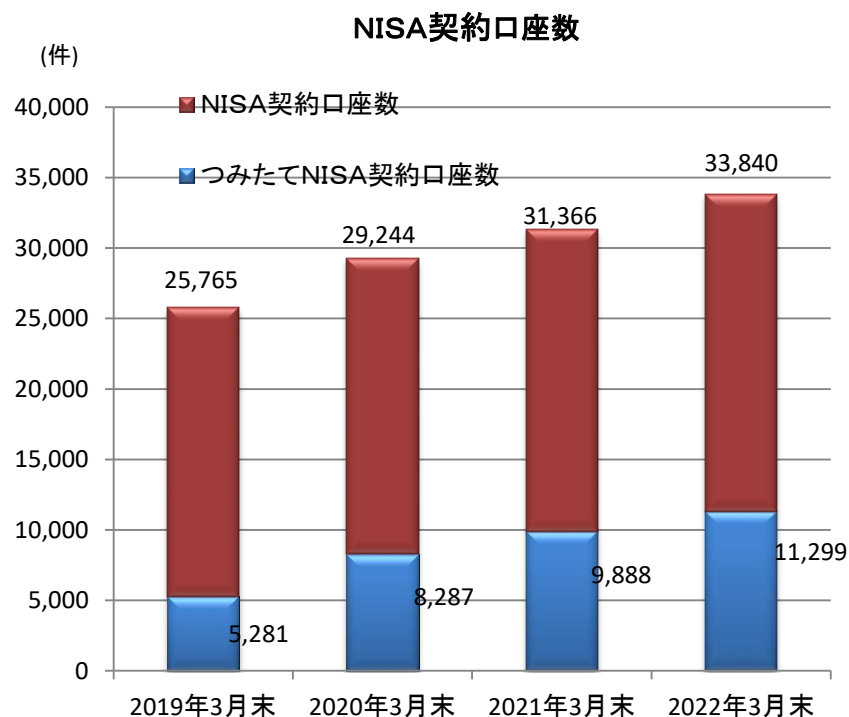
- 当行を通じて投資信託を保有していただいているお客さまは、2022年3月末において41,205名となり、前年度に比べ2,405名増加しました。
- また、2022年3月末における投資信託の平均保有年数は3.93年と前年度に比べ1.57年長期化する結果となりました。
- 平均保有年数の長期化は、当行全体として取り組んでいる長期・積立・分散投資が、お客さまに浸透してきたことや、2021年度後半に日米の相場下落により解約が減少したことなどによるものです。



- 積立投信をご契約いただいているお客さまは2022年3月末時点で23,354名となり、前年度に比べ2,907名増加しました。
- また、積立投信の積立金額も増加傾向にあり、2022年3月における月間振替額は620百万円（前年同月比＋269百万円）となりました。



- 当行を通じてNISAをご利用いただいているお客さまは順調に増加しており、2022年3月末時点のNISA口座数は33,840件となっております。
- このうち、2018年1月から開始された「つみたてNISA」は11,299件となっております、NISA・つみたてNISAいずれも東北の地方銀行において上位の契約口座数となっております。
- また、iDeCo（個人型確定拠出年金）をご契約いただいているお客さまについても着実に増加し2022年3月末時点で4,787件となり、長期・積立・分散投資の浸透がはかられております。



当行では、お客さまの投資目的やリスク許容度などに応じて、適切な商品・サービスをお選びいただけるように、幅広い商品ラインナップを取り揃えております。

● 2021年度における投資信託の販売額は220億円、一時払生命保険の販売額は113億円となりました。

● 投資信託および一時払生命保険の販売上位商品は以下のとおりです。

投資信託の販売上位商品(2021年度)

順位	商品名	カテゴリー	運用会社名	販売額 (百万円)	シェア
1	ポジティブ・チェンジ	株式	三菱UFJ国際投信	2,855	13.0%
2	まるごとひふみ50	バランス	レオス・キャピタル	2,629	11.9%
3	ひふみワールド+	株式	レオス・キャピタル	2,553	11.6%
4	まるごとひふみ100	株式	レオス・キャピタル	2,535	11.5%
5	Funds-i・日経225	株式	野村アセット	1,606	7.3%
6	クアトロ	バランス	ピクテ投信	1,092	5.0%
7	ひふみプラス	株式	レオス・キャピタル	1,052	4.8%
8	フィンテック株式ファンド	株式	日興アセット	875	4.0%
9	グローバルMaas(1年決算型)	株式	日興アセット	701	3.2%
10	財産3分法ファンド(毎月分配金)	バランス	日興アセット	639	2.9%
全商品合計				22,031	100.0%

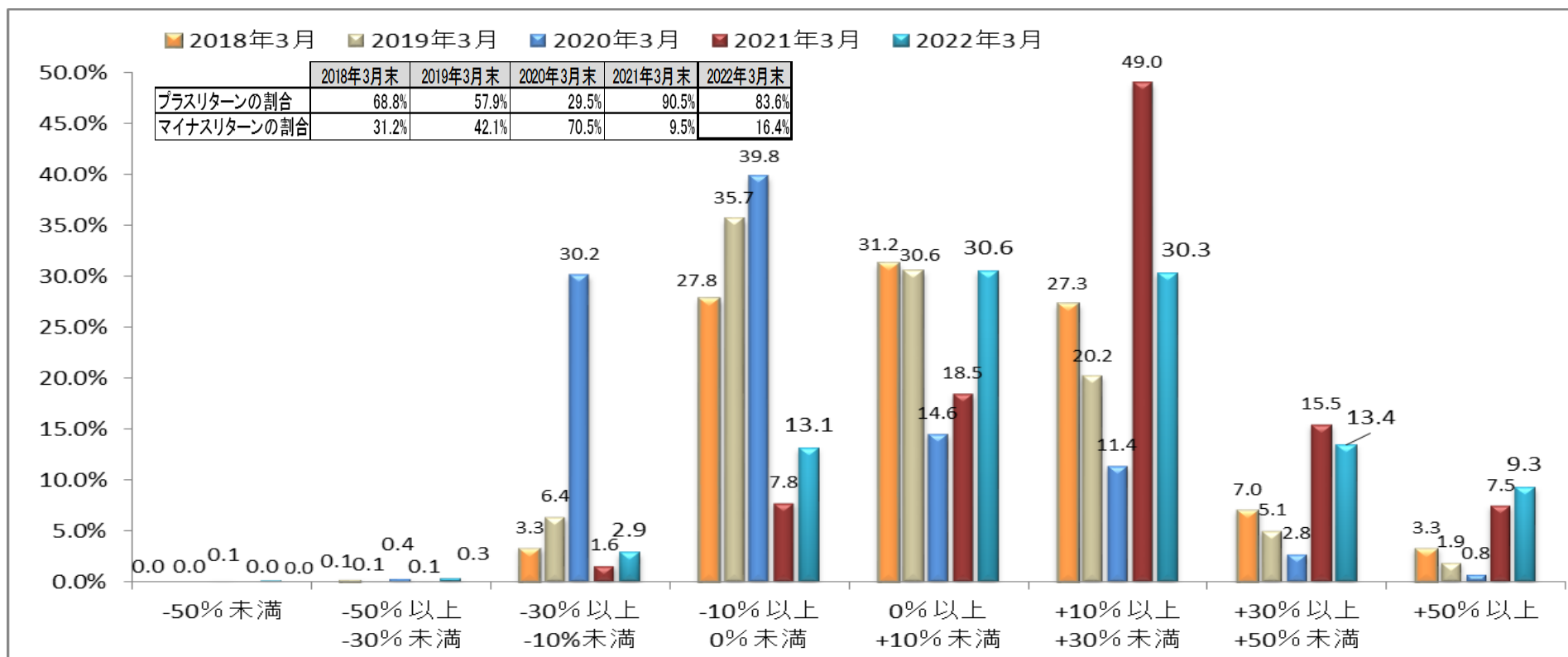
一時払生命保険の販売上位商品(2021年度)

順位	商品名	カテゴリー	保険会社名	販売額 (百万円)	シェア
1	エブリバディプラス	外貨建終身	明治安田生命	2,351	20.7%
2	プレミアプレゼント2	外貨建終身	第一フロンティア生命	1,741	15.3%
3	えらべる外貨建一時払終身	外貨建終身	明治安田生命	1,489	13.1%
4	しあわせ、ずっと2	外貨建終身	三井住友海上プライマリー生命	1,460	12.8%
5	やさしさ、つなぐ2	外貨建終身	三井住友海上プライマリー生命	1,274	11.2%
6	悠々時間アドバンス	外貨建年金	ニッセイ・ウェルス生命	1,068	9.4%
7	ふるは〜とJロードグローバルII	外貨建終身	住友生命	764	6.7%
8	おおきな、まごころ2	外貨建終身	三井住友海上プライマリー生命	645	5.7%
9	ロングドリームGOLD3	外貨建終身	日本生命	301	2.6%
10	あしたの、よろこび2	外貨建年金	三井住友海上プライマリー生命	216	1.9%
全商品合計				11,378	100.0%

投資信託をご購入いただいたお客さまの運用損益状況です。

- 2022年3月末におけるプラスリターンのお客さまの割合は、83.6%と前年度末対比6.9ポイント減少しました。
- 上記減少要因は、2022年3月の株式市場が、ウクライナ紛争や金利動向などを背景に、日本、米国ともに下落局面となり、株式に投資するファンドでマイナスリターンとなったことによるものです。

投資信託の運用損益別顧客比率



2022年3月末時点における当行を通じて保有いただいている投資信託の預り残高上位20銘柄です。

	商品名	コスト(%)	リスク(%)	リターン(%)
①	ひふみプラス	1.52	16.07	7.83
②	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	1.56	6.7	2.31
③	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.05	8.69	4.26
④	ピクテ・マルチアセット・アロケーション・ファンド	2.00	4.31	2.64
⑤	MHAM J-REIT インデックスファンド(毎月決算型)	1.16	14.7	5.89
⑥	ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2.15	20.07	4.24
⑦	インデックスファンド225	1.01	16.44	9.51
⑧	トレンド・アロケーション・オープン	1.18	7.83	-0.8
⑨	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	2.38	19.54	16.57
⑩	グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド	2.86	15.96	10.14
⑪	グローバル・フィンテック株式ファンド	2.37	27.84	16.6
⑫	野村インデックスファンド・外国株式	0.61	17.02	14.84
⑬	アジア・オセアニア好配当成長株オープン(毎月分配型)	2.20	17.37	2.89
⑭	ピクテ・アセット・アロケーション・ファンド(毎月分配型)	1.63	5.62	3.77
⑮	野村インデックスファンド・日経225	0.44	16.43	9.62
⑯	高金利先進国債券オープン(資産成長型)	1.56	6.69	2.28
⑰	DIAM世界好配当株オープン(毎月決算コース)	1.65	15.61	6.73
⑱	コモンズ30ファンド	1.52	15.64	9.99
⑲	世界ソブリン債券・日本株ファンド(毎月分配型)	1.32	7.1	4.11
⑳	BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド(毎月決算型)	1.82	4.05	-1.5

(注)1 上位銘柄は設定後5年以上経過している投資信託を対象(現在募集停止している銘柄を含む。)

2 コストは、過去5年間の1年あたりの販売手数料率と信託報酬率の合計値を表示

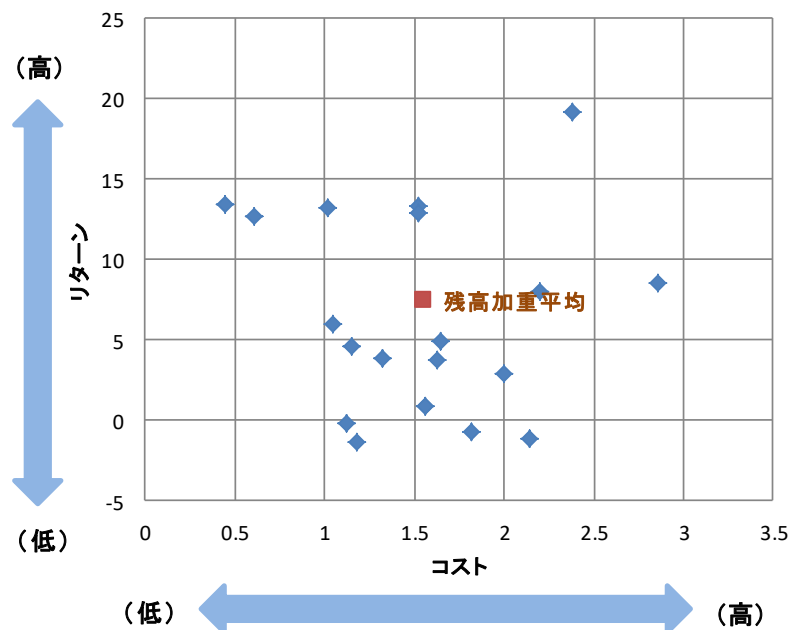
3 リスクは、過去5年間の月次リターンの標準偏差を年率に換算して表示

4 リターンは、過去5年間のトータルリターンを年率に換算して表示

当行の投資信託残高上位20銘柄におけるコストに対するリターンの実績です。

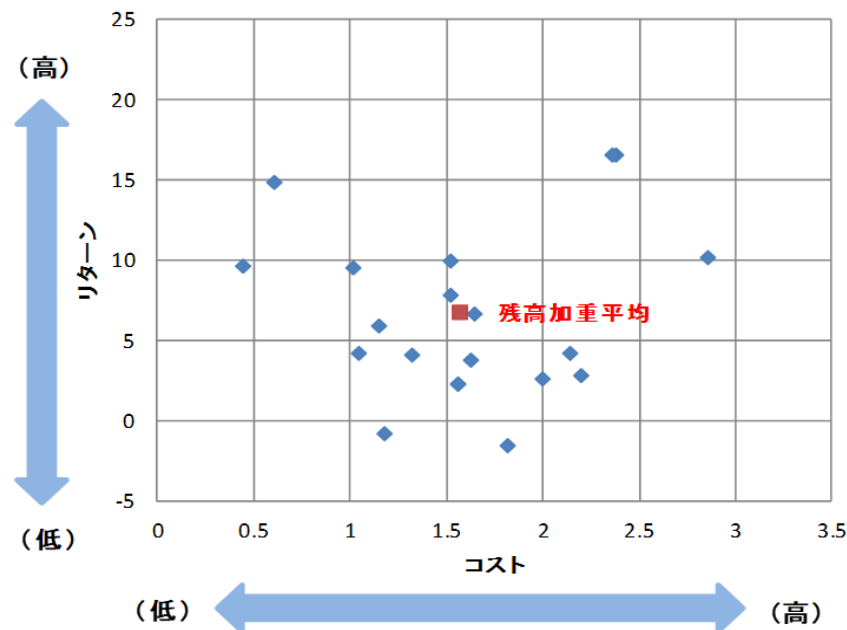
- 保有期間の長期化などを背景に、平均コストは1.58%（前年度対比0.03ポイント）とわずかに増加しました。
- 2022年3月の株式市場は、ウクライナ紛争や金利動向を背景に下落し、平均リターンは6.71%（前年度対比▲0.73ポイント）とわずかに低下しました。

コスト・リターン(2021年3月)



	コスト(%)	リターン(%)
残高加重平均値	1.55	7.44

コスト・リターン(2022年3月末)

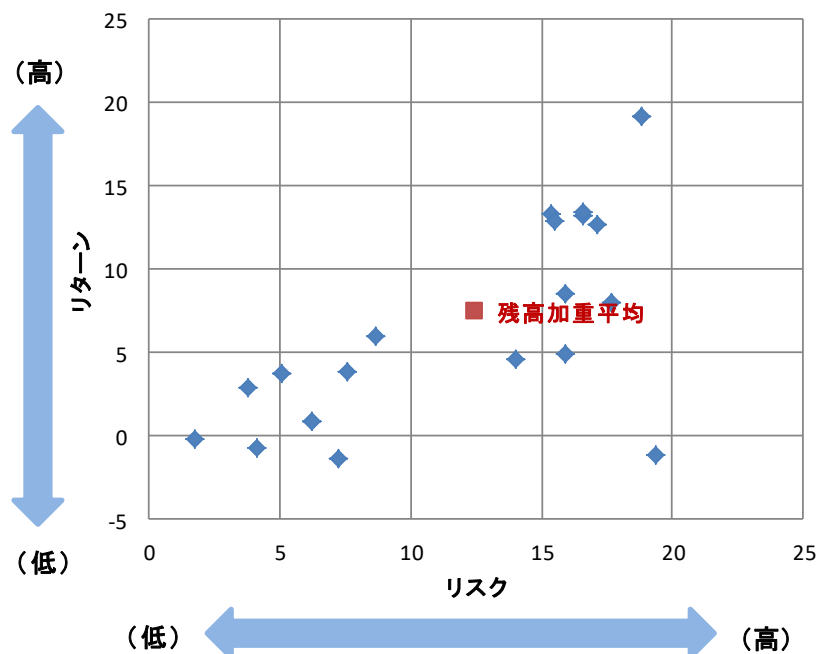


	コスト(%)	リターン(%)
残高加重平均値	1.58	6.71

当行の投資信託残高上位20銘柄におけるリスクに対するリターンの実績です。

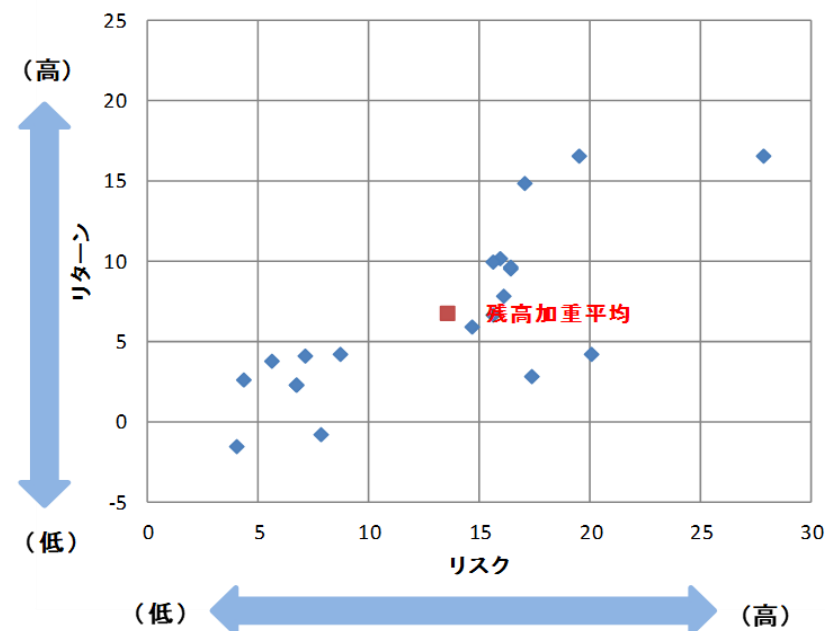
●ウクライナ紛争や金利動向などの影響により、残高上位銘柄の価格変動が大きくなったため、平均リスクは13.65%（前年度対比+1.17ポイント）と上昇しました。

リスク・リターン(2021年3月末)



	リスク(%)	リターン(%)
残高加重平均値	12.48	7.44

リスク・リターン(2022年3月末)



	リスク(%)	リターン(%)
残高加重平均値	13.65	6.71

2021年3月末

	商品名	コスト(%)	リスク(%)	リターン(%)
①	ひふみプラス	1.52	15.38	13.32
②	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	1.56	6.20	0.93
③	MHAM J-REIT インデックスファンド(毎月決算型)	1.16	13.98	4.60
④	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.05	8.66	5.95
⑤	インデックスファンド225	1.01	16.58	13.25
⑥	トレンド・アロケーション・オープン	1.18	7.25	-1.33
⑦	ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2.15	19.38	-1.18
⑧	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	2.38	18.82	19.22
⑨	ピクテ・マルチアセット・アロケーション・ファンド	2.00	3.79	2.93
⑩	アジア・オセアニア好配当成長株オープン(毎月分配型)	2.20	17.65	8.03
⑪	ピクテ・アセット・アロケーション・ファンド(毎月分配型)	1.63	5.07	3.78
⑫	グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド	2.86	15.93	8.55
⑬	高金利先進国債券オープン(資産成長型)	1.56	6.20	0.91
⑭	BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド(毎月決算型)	1.82	4.13	-0.76
⑮	野村インデックスファンド・外国株式	0.61	17.13	12.72
⑯	東京海上・円建て投資適格債券ファンド(年2回決算型)	1.12	1.77	-0.17
⑰	DIAM世界好配当株オープン(毎月決算コース)	1.65	15.91	4.97
⑱	野村インデックスファンド・日経225	0.44	16.57	13.41
⑲	コモンズ30ファンド	1.52	15.52	12.87
⑳	世界ソブリン債券・日本株ファンド(毎月分配型)	1.32	7.54	3.90

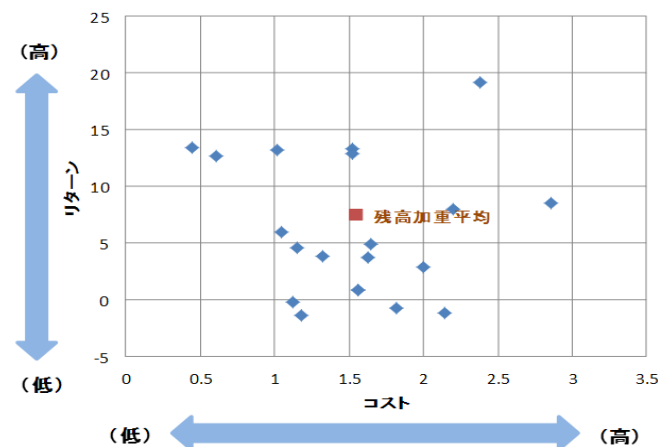
(注)1 上位銘柄は設定後5年以上経過している投資信託を対象(現在募集停止している銘柄を含む。)

2 コストは、過去5年間の1年あたりの販売手数料率と信託報酬率の合計値を表示

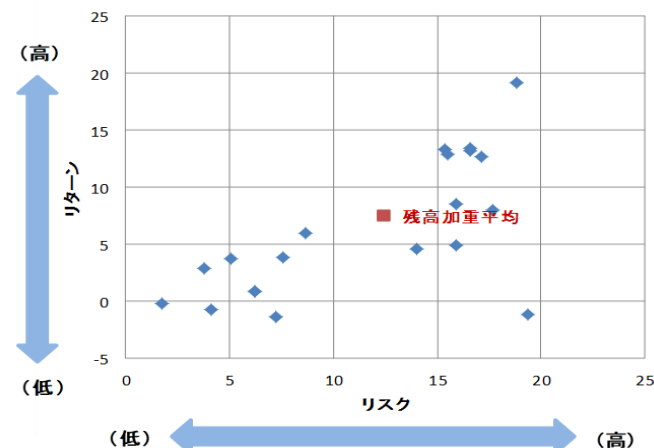
3 リスクは、過去5年間の月次リターンの標準偏差を年率に換算して表示

4 リターンは、過去5年間のトータルリターンを年率に換算して表示

■コスト・リターン



■リスク・リターン



2020年3月末

	商品名	コスト(%)	リスク(%)	リターン(%)
①	ひふみプラス	1.52	15.86	6.98
②	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	1.56	6.42	-2.55
③	トレンド・アロケーション・オープン	1.40	7.90	-2.22
④	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.27	9.21	0.54
⑤	MHAM J-REIT インデックスファンド(毎月決算型)	1.16	13.24	0.04
⑥	ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2.15	18.40	-8.10
⑦	インデックスファンド225	1.01	17.09	1.13
⑧	ピクテ・マルチアセット・アロケーション・ファンド	2.22	3.58	0.54
⑨	アジア・オセアニア好配当成長株オープン(毎月分配型)	2.20	18.73	-5.02
⑩	ピクテ・アセット・アロケーション・ファンド(毎月分配型)	1.85	4.83	-0.11
⑪	高金利先進国債券オープン(資産成長型)	1.56	6.42	-2.58
⑫	BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド(毎月決算型)	1.82	3.90	-1.06
⑬	東京海上・円建て投資適格債券ファンド(毎月決算型)	1.12	1.96	0.75
⑭	東京海上・円建て投資適格債券ファンド(年2回決算型)	1.12	1.97	0.75
⑮	コモンズ30ファンド	1.52	16.50	1.20
⑯	グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド	2.86	18.04	0.53
⑰	DIAM世界好配当株オープン(毎月決算コース)	1.65	15.76	-3.37
⑱	世界ソブリン債券・日本株ファンド(毎月分配型)	1.54	8.20	-1.12
⑲	スマート・ラップ・ジャパン(1年決算型)	1.72	5.60	-0.05
⑳	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.27	9.36	-0.28

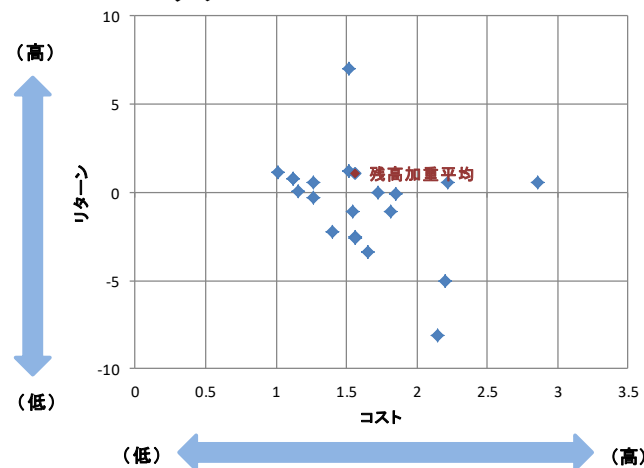
(注)1 上位銘柄は設定後5年以上経過している投資信託を対象(現在募集停止している銘柄を含む。)

2 コストは、過去5年間の1年あたりの販売手数料率と信託報酬率の合計値を表示

3 リスクは、過去5年間の月次リターンの標準偏差を年率に換算して表示

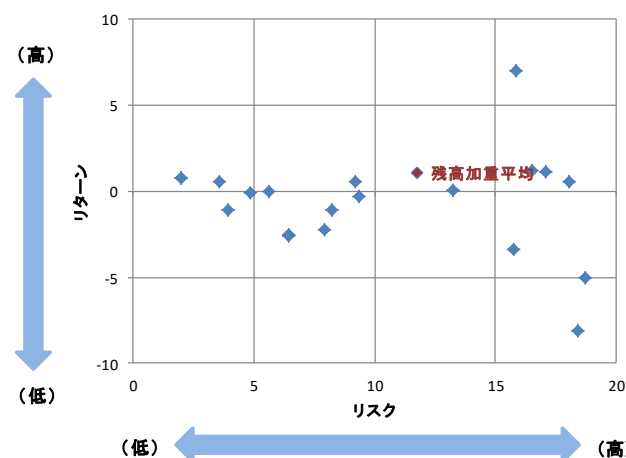
4 リターンは、過去5年間のトータルリターンを年率に換算して表示

■コスト・リターン



	コスト(%)	リターン(%)
残高加重平均値	1.56	1.07

■リスク・リターン



	リスク(%)	リターン(%)
残高加重平均値	11.75	1.07

2019年3月末

	商品名	コスト(%)	リスク(%)	リターン(%)
①	ひふみプラス	1.49	15.03	13.87
②	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	1.76	6.96	0.65
③	ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2.21	13.99	5.87
④	MHAM J-REIT インデックスファンド(毎月決算型)	1.13	8.73	8.51
⑤	トレンド・アロケーション・オープン	1.60	5.69	1.07
⑥	インデックスファンド225	0.99	15.70	8.82
⑦	アジア・オセアニア好配当成長株オープン(毎月分配型)	2.38	15.73	3.46
⑧	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.46	8.05	4.90
⑨	ピクテ・マルチアセット・アロケーション・ファンド	2.22	3.03	1.47
⑩	ピクテ・アセット・アロケーション・ファンド(毎月分配型)	1.81	4.19	1.58
⑪	高金利先進国債券オープン(資産成長型)	1.76	6.97	0.60
⑫	BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド(毎月決算型)	2.11	3.84	0.76
⑬	東京海上・円建て投資適格債券ファンド(年2回決算型)	1.10	1.74	1.54
⑭	東京海上・円建て投資適格債券ファンド(毎月決算型)	1.10	1.74	1.54
⑮	DIAM世界好配当株オープン(毎月決算コース)	1.84	13.56	3.61
⑯	世界ソブリン債券・日本株ファンド(毎月分配型)	1.84	8.54	2.86
⑰	コモンズ30ファンド	1.49	15.17	8.48
⑱	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.46	8.15	5.68
⑲	グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	1.67	6.34	1.49
⑳	HSBC インド オープン	2.81	21.29	7.54

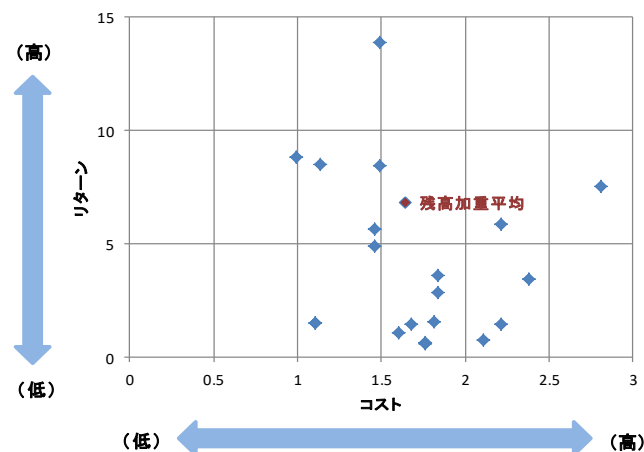
(注)1 上位銘柄は設定後5年以上経過している投資信託を対象(現在募集停止している銘柄を含む。)

2 コストは、過去5年間の1年あたりの販売手数料率と信託報酬率の合計値を表示

3 リスクは、過去5年間の月次リターンの標準偏差を年率に換算して表示

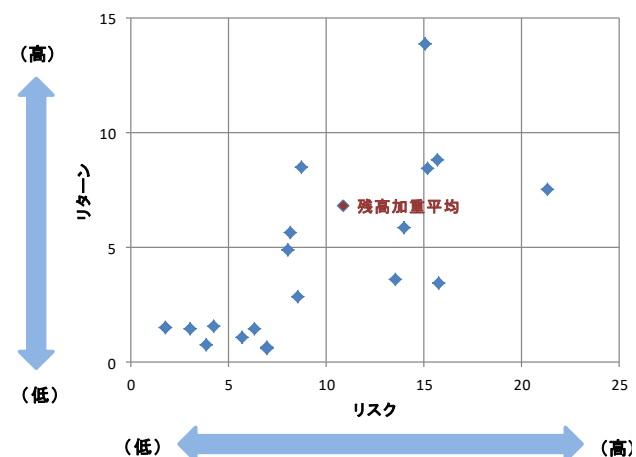
4 リターンは、過去5年間のトータルリターンを年率に換算して表示

■コスト・リターン



	コスト(%)	リターン(%)
残高加重平均値	1.64	6.83

■リスク・リターン



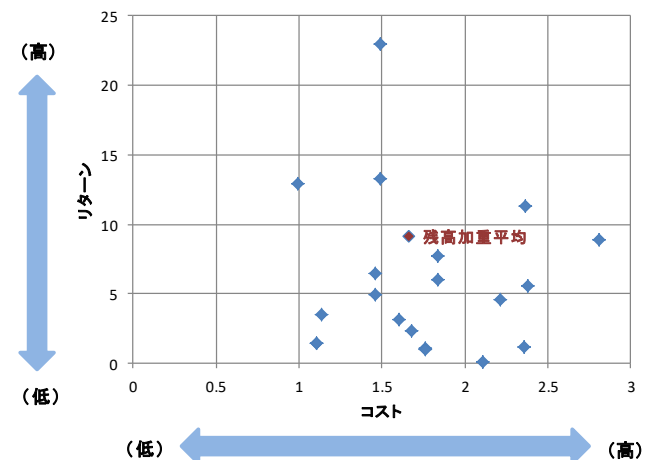
	リスク(%)	リターン(%)
残高加重平均値	10.86	6.83

2018年3月末

	商品名	コスト(%)	リスク(%)	リターン(%)
①	ひふみプラス	1.49	14.03	22.96
②	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	1.76	8.33	1.06
③	ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2.21	14.17	4.61
④	MHAM J-REIT インデックスファンド(毎月決算型)	1.13	13.25	3.55
⑤	トレンド・アロケーション・オープン	1.60	5.38	3.15
⑥	アジア・オセアニア好配当成長株オープン(毎月分配型)	2.38	15.66	5.58
⑦	インデックスファンド225	0.99	16.18	12.96
⑧	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.46	9.25	4.98
⑨	高金利先進国債券オープン(資産成長型)	1.76	8.31	1.02
⑩	ピクテ・アセット・アロケーション・ファンド(毎月分配型)	2.35	4.86	1.23
⑪	東京海上・円建て投資適格債券ファンド(年2回決算型)	1.10	2.00	1.50
⑫	BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド(毎月決算型)	2.11	3.98	0.12
⑬	東京海上・円建て投資適格債券ファンド(毎月決算型)	1.10	1.99	1.50
⑭	DIAM世界好配当株オープン(毎月決算コース)	1.84	13.37	7.70
⑮	世界ソブリン債券・日本株ファンド(毎月分配型)	1.84	9.22	6.01
⑯	コモンズ30ファンド	1.49	14.07	13.32
⑰	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.46	8.30	6.46
⑱	グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	1.67	7.59	2.31
⑲	HSBC インド オープン	2.81	24.29	8.94
⑳	株ちょファンド日本(高配当株・割安株・成長株)毎月分配型	2.36	14.71	11.29

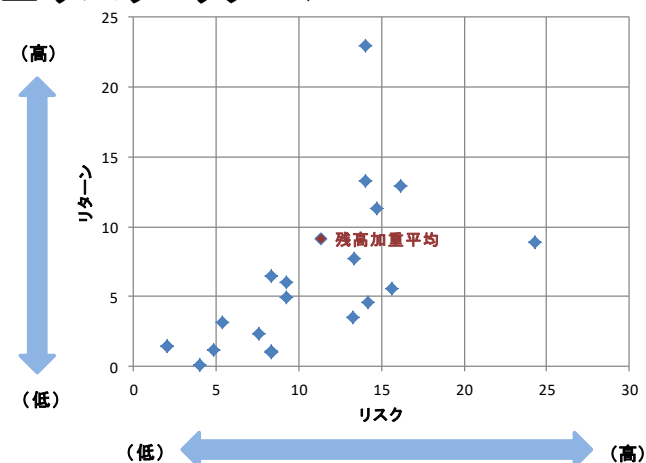
- (注)1 上位銘柄は設定後5年以上経過している投資信託を対象(現在募集停止している銘柄を含む。)
 2 コストは、過去5年間の1年あたりの販売手数料率と信託報酬率の合計値を表示
 3 リスクは、過去5年間の月次リターンの標準偏差を年率に換算して表示
 4 リターンは、過去5年間のトータルリターンを年率に換算して表示

■コスト・リターン



	コスト(%)	リターン(%)
残高加重平均値	1.66	9.15

■リスク・リターン

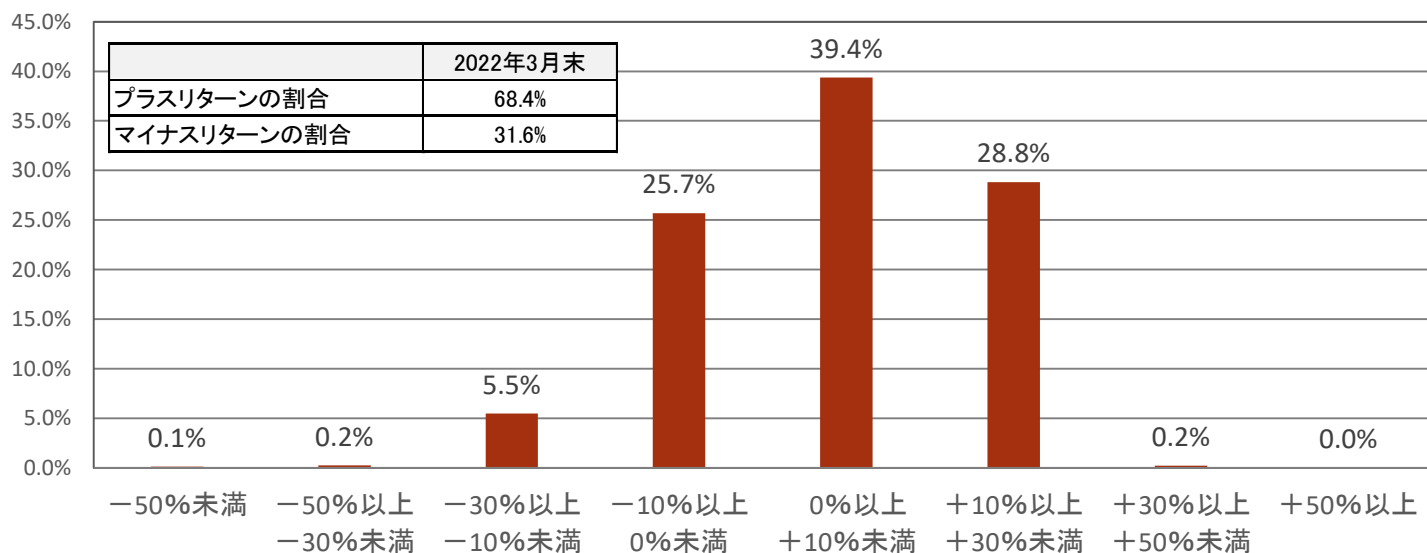


	リスク(%)	リターン(%)
残高加重平均値	11.33	9.15

外貨建一時払保険をご契約いただいたお客さまの運用損益状況です。

●2022年3月末におけるプラスリターンのお客さまの割合は、68.4%と7割近くのお客さまがプラスリターンとなりました。

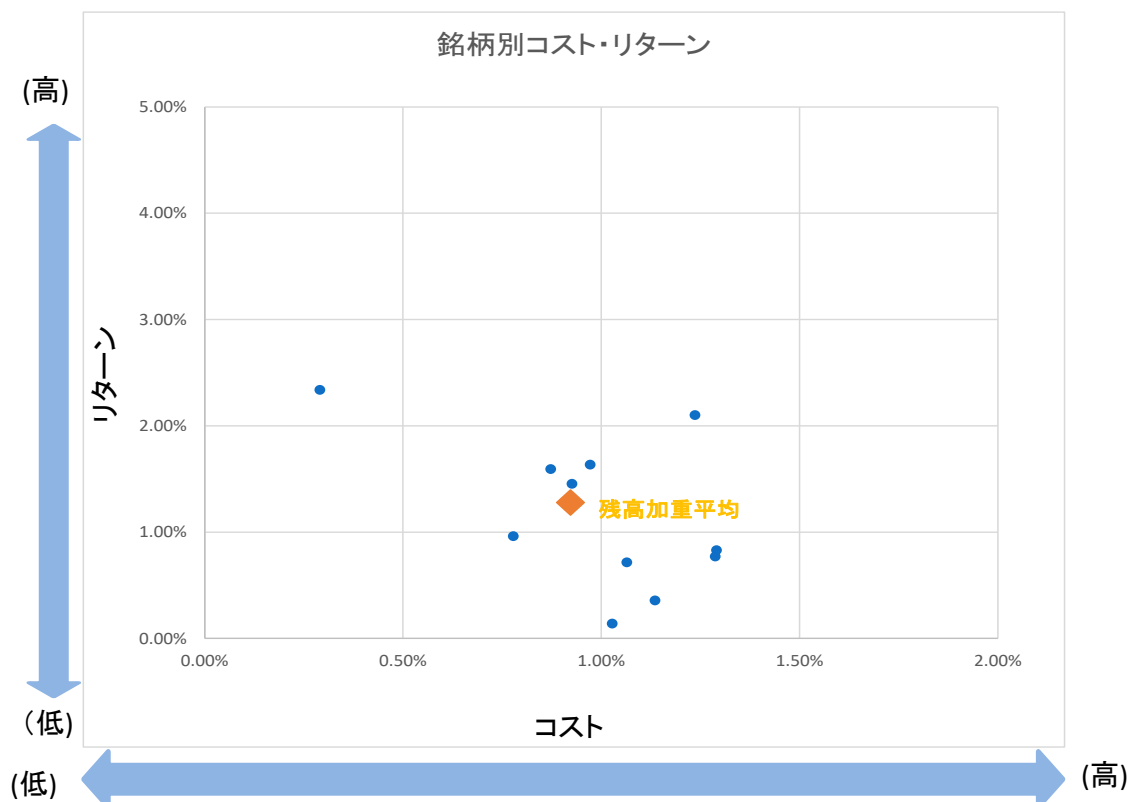
外貨建一時払保険の運用評価別顧客比率



外貨建一時払保険をご契約いただいたお客さまの運用損益状況です。

●2022年3月末におけるリターンは、円安の影響を大きく受け、1.28%となりました。

	商品名	コスト	リターン
①	しあわせ、ずっと	0.97%	1.64%
②	たのしみ、ずっと	0.93%	1.45%
③	プレミアシーブ	0.78%	0.96%
④	プレミアジャンプ	1.03%	0.14%
⑤	ロングドリームGOLD	0.87%	1.59%
⑥	プレミアジャンプ・年金	1.14%	0.36%
⑦	プレミアジャンプ・終身	1.29%	0.77%
⑧	アテナ2	0.29%	2.34%
⑨	しあわせ、ずっとNZ	1.06%	0.72%
⑩	プレミアジャンプ2・年金	1.24%	2.10%
⑪	アテナ	0.21%	3.75%
⑫	プレミアジャンプ2・終身	1.29%	0.83%
	加重平均	0.92%	1.28%



	コスト	リターン
加重平均	0.92%	1.28%